

りょう せん
稜線

江別市立大麻東中学校 学校だより

令和4（2022）年度 第9号
令和4年11月30日発行 校長 佐藤 貢

<https://www2.ebetsu-city.ed.jp/oasahigashi-jh/>

冬があるから、春はかがやく

校長 佐藤 貢

今週から三者懇談が始まっています。3年生にとっては、自分の進路を決める大切な場面となります。後輩達に範を示し、それぞれに一生懸命にがんばってきた彼らが自己実現に向けて、この冬を力強く乗り越えてくれることを祈っています。そうする中で人として一回り大きく成長している姿を想像しています。

この時期になるとかつての卒業生たちのことが断片的に思い出されます。

自分の学級に朴訥とした男の子がいました。今は40代半ばになっているのでしょうか。三者懇談にはお母さんがいらっしやって、三者で受検する高校を真剣に相談し、結果、彼は第1志望を変えました。その晩、お母さんから電話が入り、さらに志望校を変えるように説得してほしいとお願いされました。お母さんの心配される気持ちは痛いほど伝わりました。しかし、それ以上に三者懇談を終えて帰るその子の寂しそうな何か言いたげな表情が目に見えてきました。「お母さん、彼の意地とかプライドにかけてみたい気がするのですがだめでしょうか。自分の進路を大人が決めたと思っただけは避けたいんです。」というようなこととお話ししました。生意気な言い方をしたと思います。

翌日、その子は「先生、僕がんばります。三者懇で決めた高校が僕の志望校です。」と伝えに来てくれました。しかし、願書提出前にもう一回よく話し合わなければという弱気な気持ちが私の心の隅にはありました。その晩、今度は彼のお父さんから電話がかかってきました。「先生、よく言ってくれました。妻には自分からもう一度話をするし、仮に試験、ダメでも誰のせいでもないですし、それで人生が決まるわけではないでから。」とおっしゃってくださいました。合格発表の日、お母さんの顔も浮かんで、自分のことのようにどきどきとしたのを覚えています。

彼は、今、東京で家庭をつくり、警察官として働いています。

そのほかにも、それぞれの子にそれぞれの悩みがあり、大人のように器用に振る舞うことがかなわない中学3年生、いらいらしたり、むやみに明るくしてみたりした子もいました。共通して意識していたことは、そばにいるからというメッセージを送ることです。正直なことを言えば、かける言葉が見つからなかったというのもあります。

北国の長い冬。規則正しい生活を送りながらやるべきことをやるだけというシンプルな心持で過ごしてほしいと思います。そうして、かがやく春を迎えてほしいと思います。



■ふれ愛フェスタ 3年ぶりに開催

新型コロナウイルスの影響で中止が続いた「大麻・文京台青少年ふれ愛フェスタ」(大麻・文京台青少年育成会主催)が、11/27(日)にえぼあホールで開催されました。

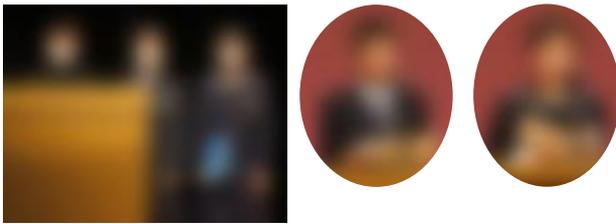
大麻・文京台地区の小学校5校と中学校2校の代表児童生徒が作文発表を行い、本校からも次の2名の生徒が発表しました。

◇1年 ○○○○さん『畑部』

◇2年 ○○○○さん『何気ない日常に感謝』

※中学生の部は来年度の「少年の主張大会」の予選を兼ねているため、1・2年生の参加としています。

また、本校生徒会役員の○○会長、○○副会長、○○書記次長が司会を担当し、さわやかなアナウンスで会を進行しました。

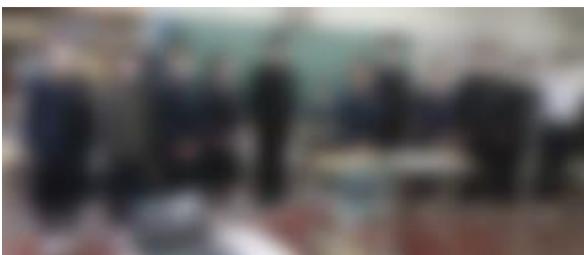


■生徒総会で後期活動内容を決定 ～生徒会役員は新旧交代、第45代へ～

11/22(火)に行った生徒総会では、生徒会活動の前期反省と後期活動計画が承認されました。第44代生徒会役員が退任し、第45代へとバトンが渡されました。2年生が生徒会活動の中心的役割を果たしていくことになります。堂々とした提案や、スムーズな運営の様子に、頼もしさを感じさせる新生徒会役員です。

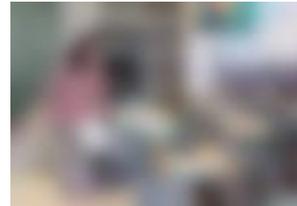
→リモートでの生徒総会

↓第44代役員の退任挨拶



■閉鎖学級でオンライン授業を実施

11月は全道的に新型コロナウイルスの感染者数が増える中、本校でも学級閉鎖、学年閉鎖が相次ぎました。江別市でオンライン授業が可能になって以降、本校では閉鎖措置がなかったため、今回が初めてのオンライン授業となりました。



実施に備えて教員研修を行ったり、生徒に説明を行ったりしてはきましたが、実際に行ってみてわかることも

多々ありました。見やすい資料の提示方法や発表の仕方、各種機能の活用、予想外のチャット私語に対する指導など、今後もオンライン授業の機会があればさらに改善していけそうです。

「顔を見てほっとした」という声からは、互いに顔を見てコミュニケーションをとることの大切さも改めて感じます。感染状況が落ち着いて、対面の授業を継続できるよう願う毎日です。

小中一貫教育

■目指す子ども像の実現に向けて

来年度からの小中一貫教育本格実施に向けて、様々な取組が進んでいます。

★11/9(水)には特別支援学級の交流が行われ、校区の小学生が来校しました。5組生徒が木工や縫製の作品について説明をした後に、小学生がお客さんとなり、買い物体験の学習を行いました。



「どれを買おうか…」製品を吟味しています ↑

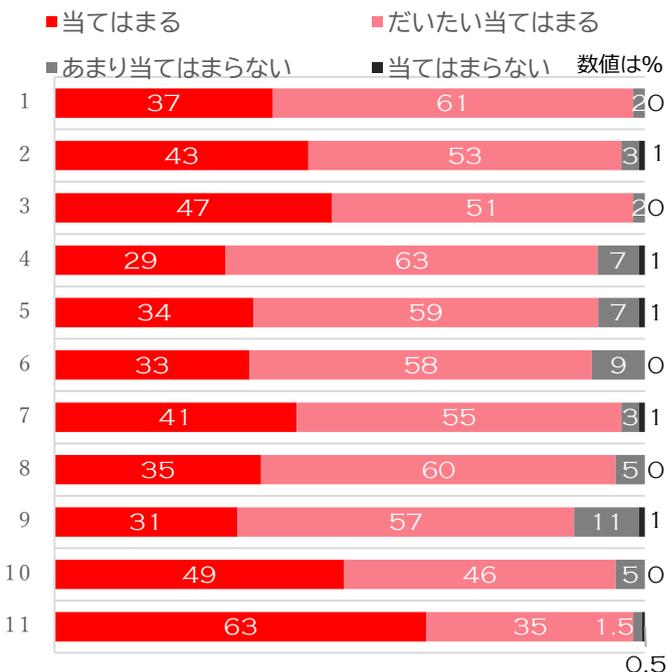
★11/15(火)には大麻東小、大麻泉小の先生方が来校し、授業参観。小学校卒業後の子ども達が、中学校でたくましく学び成長している姿を見ていただきました。生徒の下校後は部会に分かれ、教育課程の小・中接続や、児童会・生徒会の交流、学習や生活の中学校区スタンダード作成についてなど、話し合いを深めました。生活のスタンダード作成に当たっては、児童生徒から意見募集も行っています。

令和4年度中間学校評価 保護者アンケートから

掲載が遅くなり申し訳ありませんでした。間もなく年度末アンケートをお願いする予定です。

■各項目への回答

- 1 家庭においても他者を思いやる心情を養っている。
- 2 SNSの危険性を理解して、約束事を決めて使用させている。
- 3 困ったときは助けを求めたり、困っている人がいたら助けたりすることの大切さを意識させている。
- 4 子どもが自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えをしっかりと聞こうとしたりすることを心がけさせている。
- 5 子どもに自己決定・自己選択させることを心がけて支援している。
- 6 子どもが夢や目標を持って努力を続けるよう働きかけている。
- 7 子どもが運動や睡眠、食事など健康に気をつけて生活できるよう支援している。
- 8 家庭でも挨拶や言葉遣いを意識させている。
- 9 中学校区における目ざす子ども像を踏まえて、小中学校が連携・協働して、その育成に取り組む必要性を感じる。
- 10 臨時休業等、生徒の学びを止めない取組として個人用端末の利用の必要性を感じる。
- 11 学校における新しい生活様式を理解し、家庭内においても、できうる範囲の感染症対策を講じている。



■家庭や地域、学校での子どもたちの様子を見て、成長を感じた場面や課題を感じた場面

〈進んで考え、共に学び合う子ども〉

- ・以前は分からないことや調べなければいけないことを聞かれたり、親の管理の元にネットで調べたりしていた。今は自分自身でパソコンで調べたり図書館に行くようになった。成長を感じると共に、声かけしないといつまでもネットで関係ないものを見て時間を過ごすことがあり、ネットの使い方の約束はしていても自己管理という面での課題はあるように感じます。(2年)
- ・参観日の授業では、テンポが速く、ついていけるのかな、という心配な様子もあったような気がしますが、生徒が分かった、また、対話しながら楽しい、と思えるような授業が多く見られました。

〈やさしい心で助け合う子ども〉

- ・体育祭での、3年生の話を聞く態度、相手を思いやる応援の仕方が素晴らしく、こんなにも成長出来たんだと嬉しくなりました。(3年)
- ・自分の意思を伝えたり、困った時に周りに助けを求めたり出来る様になって来た。(3年)
- ・宿泊学習や修学旅行などの班編成が必要な場面で、どんな時も「誰となってもみんな仲が良いから」という子どもの言葉を聞き、とても感心しました。これからもそんな素敵な学校であってほしいと思います。

〈進んで行動ができる子ども〉

- ・1年前とは別人(大袈裟?!)のように、3年生が部活を引退した頃から、引っ張っていく立場という自覚が芽生えたように感じます。(2年)
- ・今までは全くなかったが、好きな社会は自主的に調べたり見たりをするようになり成長を感じた。逆に他の教科や部活は自主的に取り組むことは少ない。全てのことに時間の計画、管理をしっかりやってほしい!
- ・親族の大人同士で、家族観など大事な話をしている意見の相違があったとき、息子もそばで真剣に聞いていて自分の意見を言うようになり、話し合いに入ろうとする姿勢や、自分の意見を持ち、それを発言できることに成長を感じました。(3年)
- ・体育祭を見学し、自己の記録更新や団体競技において、練習を繰り返した成果がよく分かった。勝ち負けの結果に関わらず、頑張った過程を皆で共有出来ているようで、子供達の成長を感じた。大雨の中の体育祭、青春だなあと感じた。(2年)

〈明るく元気に鍛え合う子ども〉

- ・学校に行くと、ハキハキと挨拶をしてくれる生徒さん達にいつも明るい気持ちにさせてもらっています。
- ・来校した時に挨拶が自然と出来ている(3年)
- ・学校に行った際、爽やかに元気な挨拶をしてくれる子どもが多い。(部活動)
- ・学校へ行くと、学年が上がるにつれ、生徒の方から挨拶をしてくれたり、身だしなみが整っていて、気持ちの良い印象を受けます。

- ・近所の方に進んで挨拶が出来るようになりました。部活動での経験が生きてきたんだな、と嬉しく思いました。
- ・部活の大会(自校開催、他校開催どちらも)での、挨拶、ルールを守るといった基本的な行動が、よその学校より身につけていると感じました。プラス、自分たちの仕事ではない所に気が付き、率先して行動していたので、本当に素晴らしいと感じ、見ていて気持ち良かったです！(3年)
- ・部活動で先輩に対する言葉遣いに気をつけていて、上下関係を理解していると感じました。(2年)
- ・挨拶が全く出来ていないように感じる。
- ・来校された方には必ず誰か分からなくても大人であれば挨拶を徹底するべき。(1年)
- ・親から子供に挨拶する時代なのかなあと感じています。

〈全般〉

- ・自分なりにひとつひとつよく考え、必要に応じて取捨選択し、失敗しながらも少しずつ、現実と折り合いをつける方法を見つけているように見えます。規範意識も以前より高くなり、社会の一構成員としての在り方について考えながら行動したり、振り返ったりできるようになってきていると思います。(1年)
- ・コロナ禍で制限のあるなか、子供達の成長のためにイベントを出来る方向で検討していただき、先生達には感謝しかありません。子供達主体で、議題に対して話し合う場面や学校の課題に取り組むなかで、自分の興味ある分野や価値観に向き合う場面もあるようです。様々な個性の同級生みんなが参加できる形を…と話す場面もあり、自分だけでなく周囲の人の事も考える姿勢が育っているように感じます。私達大人からしたら「コロナ禍で自分達の時のようにアレもコレも出来なくてかわいそう」という思いのなか、子供達は「(制限や衛生に気を付けながら)アレは出来る。コレも出来る。」と先生達の素敵な部分を引き継いでいて、楽しい部分に目を向けていけるたくましが育っているなど感じています。授業や仕組み作りでの先生達の働きかけによるものなのかな、と思います。コルクの見学などで自分の住む町にどんな施設があるのかなど体験も出来、高齢者や障害のある方とも地域で共に暮らしていくイメージも持てたようです。職場体験の機会がなく、働く大人のイメージが親族の職業の範囲にとどまってしまうようです。救命講習など、同じ年頃の人と同じ体験を共有して、子供でも命に関わる事が出来る経験を率直に話せる場面があったらなと思いました。先生達の伝えてくれていることと矛盾のないよう、家庭でも協力してやっていきたいなと思います。(1.3年)

〈改善を望むもの〉

- ・子供の成長、課題という部分とは異なりますが、タブレット端末を利用した学習という面で、活用の機会が少ないのでは、という気がします。難しい事も多いかと思いますが、いざという時に使えないのでは話にならないのでもう少し実用が必要かと思えます(1年) ⇨健康にも配慮しながら、活用を図っていきます。日常的な家庭学習での活用についても、12月からは週末に限らず、自分の判断で持ち帰ることが可能になります。
- ・子供の登下校の荷物が重過ぎて心配です。(3年) ⇨全て学校に置いてよいことになっていますが、「考えるのが面倒だから全部持って帰る」という生徒が多いのも事実です。帰宅後の学習を考えて決めるよう、働きかけます。

12月の行事予定

玄関や廊下の装飾から



日	曜	行 事	絵
1	木	登校指導 三者懇談④	○
2	金	三者懇談⑤	○
3	土		
4	日		
5	月	自由参観 心肺蘇生法講習(2-1)	○
6	火	自由参観 心肺蘇生法講習(2-2)	○
7	水	心肺蘇生法講習(2-3)	○
8	木	インターンシップ(高校生)受入	○
9	金	インターンシップ(高校生)受入 1年人権教室 北地区資源回収	○
10	土		
11	日		
12	月		○

日	曜	行 事	絵
13	火		○
14	水	職員会議 南地区資源回収	○
15	木		○
16	金	3年学年末テスト①(4教科)	○
17	土		
18	日		
19	月	ウィンタープロジェクト作成 1.2年学年末テスト(4教科)計画	○
20	火		○
21	水	職員会議	○
22	木	大掃除	○
23	金	休み前集会	○
24	土	冬季休業～1/15	